

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
[a…よくあてはまる, b…あてはまる, c…あてはまらない, d…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月(現状), 12月, 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main areas: 'School Management' and 'Student Development'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり、次の授業の見通した勉強を家でしている。	aのみ A-60% B-50% C-40%	12(77)	16(75)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は75%だった。また、「よくあてはまる」と答えた生徒も16%であり、4月から4%の増加にとどまり、目標には到達しなかった。	(前期) 子供らに将来のビジョンとか目標を立ててあげて、未来に希望を持ってそこに向かっていくモチベーションを灯してあげる。小学校でも将来なりたいたいがないと答える児童が約半数いる。今の子どもは現実を見て無理だと勝手に思ってしまった。それではモチベーションがあがらない。なんで勉強したいといけないのかというふうになる。最近の子はポジティブを恥ずかしがる。子ども自身が自己分析して、設問に対して真剣に向き合っていない。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリタイム(自主学習時間)の確保	⑦ 保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A-85% B-75% C-65%	75%	71%		【7月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質は全体的に高まっていることが見てとれる。ただ、教師の取組が100%なのに対して生徒、保護者の家庭学習の取組への評価が低い所が課題であり、原因を分析し対策を講じる必要がある。	
				1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	89%	100%		○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。また、家庭学習につながる授業づくりも大切になってくる。	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aのみ A-65% B-50% C-35%	43(96)	45(99)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から2%増加した。「友達に対して思いやりの心で行動している」も4月から2%増加した。	(前期) 今の子は失敗したくないという感じがする。失敗して当然であり、同じ過ちを繰り返さないようにすればいい。失敗して覚えていく人生である。それで自信がつけばいい。違ったら恥ずかしいから手を挙げない。消極的になる。失敗・失敗じゃない基準を自分の中に持っている。周りは全然失敗じゃないよと思っても、自分の中で失敗なんですという子がいて難しい。心が繊細になってきている子が増えた。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う	1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	100%		【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	
				⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	93%	95%		○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているため、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことについて書いたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	
				⑩ 保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	94%	98%			
				1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育つよう指導している。	a+b A-95% B-85% C-75%	80%	77%			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	a+b A-95% B-85% C-75%	97%	98%		○7月評価(Check) 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については4月の調査から「よくあてはまる」のみが5%増加した結果となった。	(前期) 小学校では挨拶の項目を子ども、保護者、教師と比べると極端に違っている。子どもや教師はよくしていると答えるが、保護者はしていないと答える。学校の中では1年生のときから挨拶の指導しており、学校生活の中では普通になっている。しかし、家に帰ると挨拶しないと親はみているのかな。そのギャップをどう埋めるかが課題である。親御さんが期待したタイミングで挨拶をしていないのかもしれない。大人がしないのに、子どもにだけ求めるのもどうかと思う。子ども達が挨拶をしたら返してあげないといけない。毎朝、中学生が自転車で登校してくるが、「おはよう」と声をかけると、返してくれている。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑪ 保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	95%		【7月評価時点での成果と課題】 生徒会でボランティアを募ってのあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの取組が成果に繋がっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると97%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合がなかなか上がっていないのは、自律清掃の取組について趣旨が理解されていないのではないだろうか?自律清掃をすることで自分にどのような良い影響があるのかを押さえていく必要がある。	
				1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%		○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。	
				⑮ 生徒	自律清掃を意識して清掃に取り組んでいる。	aのみ A-65% B-50% C-35%	38(98)	43(97)			
				2 0 教師	自律清掃を意識した指導をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aのみ A-70% B-60% C-50%	28(90)	27(90)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は1%下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は80%と低かったが、4月から5%増加した。	(前期) 人には得意、不得意があり、同じことを勉強させても分かる子と分からない子がいる。いろんな経験をさせて人間性を育て、地域に残る子を育ててほしい。昔からこの地域は催しを大事にし、そこに人が集まってコミュニケーションをとっていた。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%		【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等のできるかぎり地域と連携した取組を行っている。	
				1 7 生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A-90% B-80% C-70%	75%	80%		○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	
				2 2 教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A-90% B-80% C-70%	70%	100%			